

作成日 平成 10 年 2 月 27 日
改訂日 令和 4 年 5 月 16 日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	ライトクリスタル ZX
製品整理番号	BA014
供給者の会社名称	株式会社ウォーターエージェンシー
住 所	162-0813 東京都新宿区東五軒町 3 番 25 号
担当部門	ケミカルサービス事業本部
TEL	03-3267-4073
FAX	03-3267-4106
緊急連絡電話番号	同 上
推奨用途および使用上の制限	工業用消臭剤

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

物理化学的危険性	酸化性固体	区分3
	上記以外の項目は、区分に該当しない又は分類できないである。	
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分4
	急性毒性(経皮)	区分に該当しない
	急性毒性(吸入:気体)	区分に該当しない
	急性毒性(吸入:蒸気)	区分に該当しない
	急性毒性(吸入:粉塵)	区分に該当しない
	急性毒性(吸入:ミスト)	区分に該当しない
	皮膚腐食性/刺激性	区分3
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分1
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分3(気道刺激性)
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分3(麻酔作用)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない
	誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性)	区分2
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分に該当しない
	オゾン層への有害性	分類できない

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語 危険有害性情報

危険
火災助長のおそれ:酸化性物質
飲み込むと有害
軽度の皮膚刺激
重篤な眼の損傷
呼吸器への刺激のおそれ
眠気またはめまいのおそれ
水生生物に毒性

注意書き

<安全対策>

- 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
- 衣類及び可燃物から遠ざけること。
- 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
- 粉じんを吸入を避けること。
- この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
- 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
- 取扱い後は手をよく洗うこと。
- 環境への放出を避けること。

<応急措置>

- 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師の診察、手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合: 気分が悪い時は医師に連絡すること。
- 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診察、手当てを受けること。
- 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
- 飲み込んだ場合: 気分が悪い時は医師に連絡すること。
- 火災の場合: 消火するために適切な消火剤を使用すること。

<保管>

- 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。施錠して保管すること。

<廃棄>

- 内容物及び容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託して廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物
化学名又は一般名	酸素系酸化剤
化学物質を特定できる一般的な番号	CAS No. 有り
化学式	非開示
成分及び濃度又は濃度範囲	酸素系酸化剤 非開示
官報公示整理番号（化審法）	化審法番号有り
（安衛法）	—

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと、又は取り去ること。直ちに医師に連絡すること。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。皮膚を流水またはシャワーで洗うこと。皮膚を速やかに洗浄すること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。気分が悪い時は医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	直ちに医師に連絡すること。気分が悪い時は医師に連絡すること。口をすすぐこと。
急性症状及び遅発性症状並びに最も重要な兆候及び症状	知見なし。
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	救済者は、ゴム手袋、ゴーグル等の適切な保護具を着用する。
医師に対する特別な注意事項	特になし。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	一般火災は水を用いる。(ただし、注水が不十分だと分解を起こすことがある。)
使ってはならない消火剤	泡消火剤、乾燥粉末消火剤、強い水流は使用しない。
火災時の特有の危険有害性	それ自身は燃えないが、支燃性がある。火災に巻き込まれると、燃焼を加速する。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から製品を移動する。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	消火作業の際は、周辺火災に応じて空気呼吸器、化学用保護衣等を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置
環境に対する注意事項

作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止及び保護措置』の項を参照)を着用し、
眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
河川等に排出され、環境へ影響を起さないように注意する。環境中に放出しては
ならない。

封じ込め及び浄化の方法
及び機材

漏洩物を吸い込み又は掃き取って廃棄用容器に入れる。除去後、汚染現場を水で
洗浄する。大量の場合、漏洩物の除去や廃棄処理は専門家の指示に従う。少量の
場合、漏洩区域を大量の水で洗い流す。

二次災害の防止策

知見なし。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策
局所排気・全体換気
安全取扱注意事項

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
必要に応じて全体換気、局所排気を行う。

接触回避
衛生対策

眼、皮膚に付けないこと。
接触、吸入又は飲み込まないこと。
取扱い後は手をよく洗うこと。

保管

安全な保管条件

『10. 安定性及び反応性』を参照。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

安全な容器包装材料

容器は直射日光や火気を避けること。
換気の良い場所で保管すること。
燃焼物質から離して保管すること。
紙袋(クラフト、内側 PE ラミ加工等)
フレコンバック(外装:PP、内袋 PE 等)

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度
許容濃度

設定されていない。
日本産業衛生学会(2020年度版):設定されていない。
ACGIH(2013年度版):設定されていない。

設備対策

取扱い場所には安全シャワー、洗眼設備を設置し、その位置を明示する。取扱い
については、大気への開放部分が少ない装置・機械、または局所排気装置を使用
する。

保護具

呼吸用保護具:防じんマスク等を着用する。
手の保護具:ゴム手袋等を着用する。
眼、顔面の保護具:ゴーグル型保護眼鏡等を着用する。
皮膚及び身体の保護具:ゴム長靴や長袖作業着等を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

粒状固体

色

白色

臭い

データなし

融点/凝固点

データなし

沸点又は初留点及び沸点範囲

データなし

可燃性

データなし

爆発下限界及び爆発上限界/

データなし

可燃限界

引火点

データなし

自然発火点

データなし

分解温度

データなし

pH

10~11 (3%水溶液)

動粘性率

データなし

溶解度

水:約 15.2g/100g (20℃)

n-オクタノール/水分配係数(log 値)

データなし

蒸気圧

データなし

密度及び/又は相対密度

0.7~0.8 g/cm³

相対ガス密度

データなし

粒子特性

データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	酸化性あり。
化学的安定性	単独では通常の取扱い条件では安定である。 熱や分解を促進する物質との接触によって分解する。 吸湿や水濡れによっても分解が誘発、促進される。 熱がこもると分解が加速され、急激に分解して高温に達し、密閉容器では破裂することがある。 加熱すると分解が促進される(温度が 10°C 上昇すると、分解速度は約 2.2 倍速くなる)。 分解時は酸素ガス、水(または水蒸気)及び熱を発生する。
危険有害反応可能性	水に溶解すると、炭酸ナトリウムと過酸化水素に分解する。水溶液は弱アルカリ性を示し、放置しておくとも過酸化水素は徐々に分解して水と酸素ガスになる。
避けるべき条件	加熱、加温。
混触危険物質	重金属類およびその塩類、還元性物質、酸性物質、酸化されやすい有機物、可燃物、潮解性物質等。
危険有害な分解生成物	酸素、水(水蒸気)。

11. 有害性情報

急性毒性	経口:マウス LD ₅₀ = 1,267mg/kg(推定値)であるため、分類 JIS で区分4とした。 経皮:ウサギ LD ₅₀ > 2,000mg/kg(推定値)であるため、分類 JIS で区分に該当しないとした(GHS 分類基準で区分5に該当)。
	吸入(気体):区分に該当しない。 吸入(蒸気):区分に該当しない。 吸入(粉塵):区分に該当しない。 吸入(ミスト):区分に該当しない。
皮膚腐食性/刺激性	区分3に相当する成分を含むため、分類 JIS で区分3とした。
眼に対する重篤な損傷性 /眼刺激性	区分1に相当する成分を含むため、分類 JIS で区分1とした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性:データ不足のため、分類できない。 皮膚感作性:データ不足のため、分類できない。
生殖細胞変異原性	データ不足のため、分類できない。
発がん性	データ不足のため、分類できない。
生殖毒性	データ不足のため、分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	麻酔作用が区分3である成分を含むため、分類 JIS で区分3(麻酔作用)とした。 気道刺激性が区分3である成分を含むため、分類 JIS で区分3(気道刺激性)とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データ不足のため、分類できない。
誤えん有害性	データ不足のため、分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期(急性)	甲殻類(ミジンコ)の 48 時間 EC ₅₀ = 4.9mg/L (shurtleff 1989b EPA テスト)であるため、分類 JIS で区分2とした。
水生環境有害性 長期(慢性)	区分に該当しない。
残留性・分解性	データなし。
生体蓄積性	データなし。
土壌中の移動性	データなし。
オゾン層への有害性	データ不足のため、分類できない。

13. 廃棄上の注意

化学品(残余廃棄物)、当該化学品が付着している汚染容器及び包装の安全で、かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。 容器は清浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
---	--

14. 輸送上の注意

国際規制	
海上規制情報	IMO の規程に従う。
国連番号	3378
品名	Sodium carbonate peroxyhydrate
国連分類	5.1
容器等級	III
海洋汚染物質	Not applicable
MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質	Not applicable
航空規制情報	
国連番号	3378
品名	Sodium carbonate peroxyhydrate
国連分類	5.1
容器等級	III
国内規制	
陸上規制情報	非該当
海上規制情報	船舶安全法の規程に従う。
国連番号	3378
品名	過炭酸ナトリウム
国連分類	5.1
容器等級	III
海洋汚染物質	非該当
MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質	非該当
航空規制情報	
国連番号	3378
品名	過炭酸ナトリウム
国連分類	5.1
容器等級	III
輸送又は輸送手段に関する特別な安全対策	落下、荷崩れ、破損、水濡れ防止等の一般的輸送上の注意に留意する。 分解を促進するおそれのある物質との接触、あるいは吸湿や水濡れを避ける。 直射日光等による熱源を避ける。 可燃性物質との混載は避けるのが望ましい。
緊急時対応措置指針番号	140

15. 適用法令

消防法	非該当
労働安全衛生法	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当
船舶安全法	非該当
航空法	非該当
化学物質排出把握管理促進法	非該当

16. その他の情報

・記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査した訳ではないため、情報洩れがあるかも知れません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じることがあります。

重要な決定等にご利用される場合は、試験によって確かめられる事をお薦めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、推奨用途上の通常的な取扱いを対象としたものなので、推奨用途から外れる特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。

・問合せ先

担当部門 ケミカルサービス事業本部

電話番号 03-3267-4073 FAX 番号 03-3267-4106